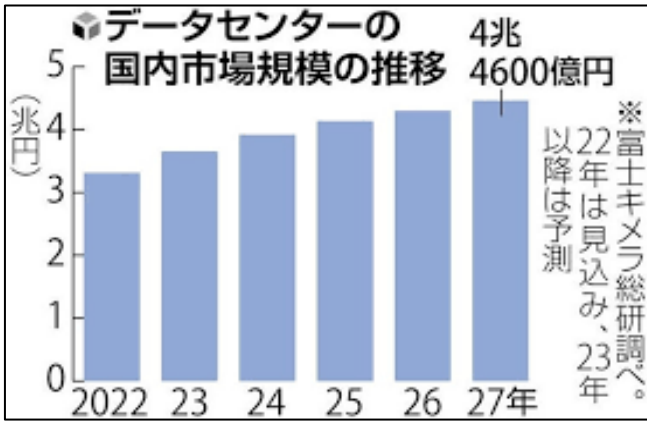


NMO OfficeLetter

学研都市にデータセンター続々誕生！

京都府の南部精華町にある「けいはんな学研都市」に全国から大型のデータセンターの進出が相次いでいる。立地環境的に災害に強く、京阪神の大都市にアクセスがいいというのが理由だ。全国的にデータセンターの新設が相次ぐ中で、今後さらに投資が活発になり、進出が相次ぐ可能性がある。特に、中心部の「けいはんなプラザ」周辺は、候補地として脚光を浴びている。あまり、大規模な土地は残っていないが、既存の建物が



まだ建っていない空いている土地を活用する動きも多い。＜解説＞最近では、関西電力のデータセンターの進出が決まった。関電は昨年、米国大手データセンター事業者と合併で事業会社を設立した。プラザに近いATR(国際電気通信基礎研究所)の未利用地2万㎡を賃借し、建屋を建設する。4階建て延べ4万㎡の建屋をIT企業に貸し出す。米国の先端IT企業の利用を見込んでいる。2027年度中の稼働を目指す。その隣接地では、NTTが400億円を投じてグループの研究拠点内に大規模なデータセンターを建設中だ。プラザの北側

には、昨年イギリスの大手企業がデータセンターを開設し、西隣のパナソニックの研究拠点跡地では、外資系の企業が2026年秋開設のデータセンターの建設を計画中だ。「けいはんな学研都市」は、地震、水害、津波などの自然災害の可能性が少なく、まとまった用地もまだ残されていて、事業者の評価が高い。さらに、大阪、京都、神戸といった大都市に近く、立地アクセスがいい。飛行機なら関空、伊丹、神戸の空港があり、新幹線なら、京都、新大阪にも近い。



新データセンターの概要

京阪高エリアに30MW規模のデータセンターの建設を計画



【概要】

建設予定地	：京都市精華部
階数	：地上4階 免震構造
サーバールーム面積	：10,900㎡ (4,800ラック相当)
IT電力容量	：30MW予定(総額)
竣工予定	：2025年度 下半期予定(初週)

【特長】

- ・災害リスクの少ない河川にも最恵な立地
- ・稼働率かつ冗長化による信頼性の高い設備
- ・再生可能エネルギーの導入
- ・優れたネットワーク環境

Copyright © NTT 2024/10/17

「けいはんな学研都市」では、従来大規模なデータセンターの建設は認めていなかったが、2022年に立地基準を見直し、進出が可能となった。ただ、大規模なデータセンターは多くの電力を消費し、地元の雇用を多く生む事業体ではない。行政としては慎重な姿勢は崩していない。研究開発型の産業施設の一部としてのデータセンターなら認める方向だ。研究開発の拠点をどれくらい集積できるか。その付属施設としてのデータセンターという位置づけで、今後どのような企業が進出し、データセンターが開設されるのか。注目の的だ。